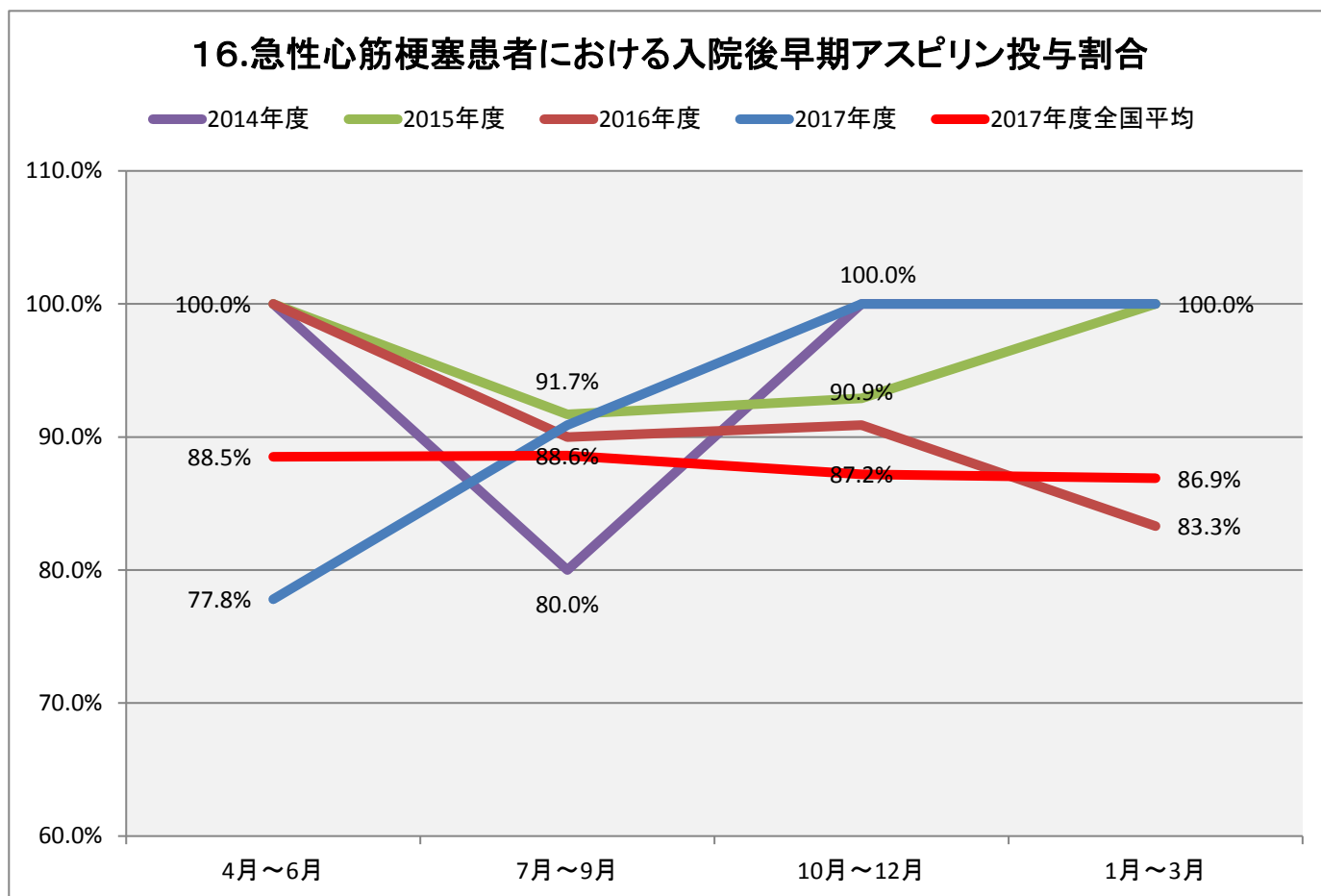


## 16.急性心筋梗塞患者における入院後早期アスピリン投与割合

### (1) 調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2017年度	77.8%	90.9%	100.0%	100.0%
2016年度	100.0%	90.0%	90.9%	83.3%
2015年度	100.0%	91.7%	92.9%	100.0%
2014年度	100.0%	80.0%	100.0%	100.0%
2017年度全国平均	88.5%	88.6%	87.2%	86.9%

- (2) 指標の説明  
急性心筋梗塞において、血小板による血管閉塞および心筋との需要供給関係の破綻、心筋のリモデリングが問題であり、抗血小板薬およびβ-遮断薬の投与が重要です。急性期におけるアスピリンおよびβ-遮断薬の処方は、心筋梗塞量の減少やイベント抑制にかかわっています。この処方率は海外の医療の質の評価指標としても採用されており、広く認識された指標であるといえます。
- (3) 定義  
分子: 分母のうち、入院後二日以内にアスピリンもしくはクロピドグレルが投与された患者数  
分母: 急性心筋梗塞で入院した患者数
- (4) 考察  
当院では、入院時処方の徹底を行い、高い投与率を保持するよう努めています。今後も継続していきたいと考えています。